



ホワイトスペースなど新たな電波の活用に向けて

平成22年3月1日

総務副大臣

内藤 正光

201X年電波が変わる

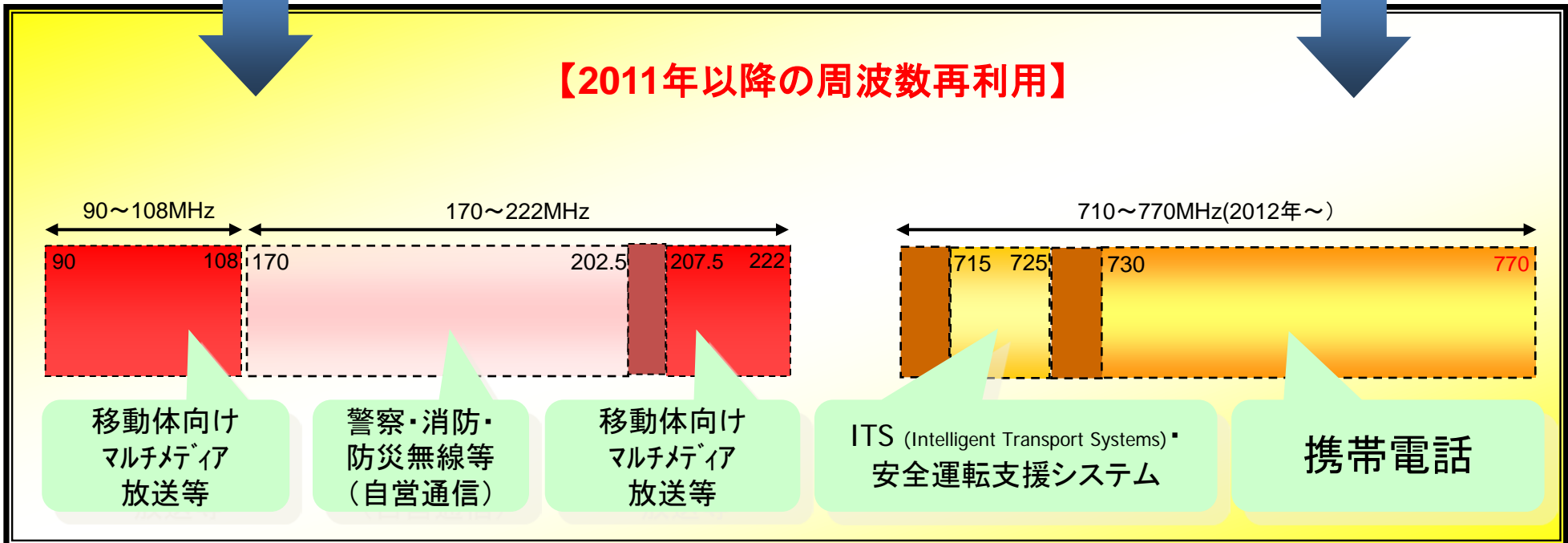
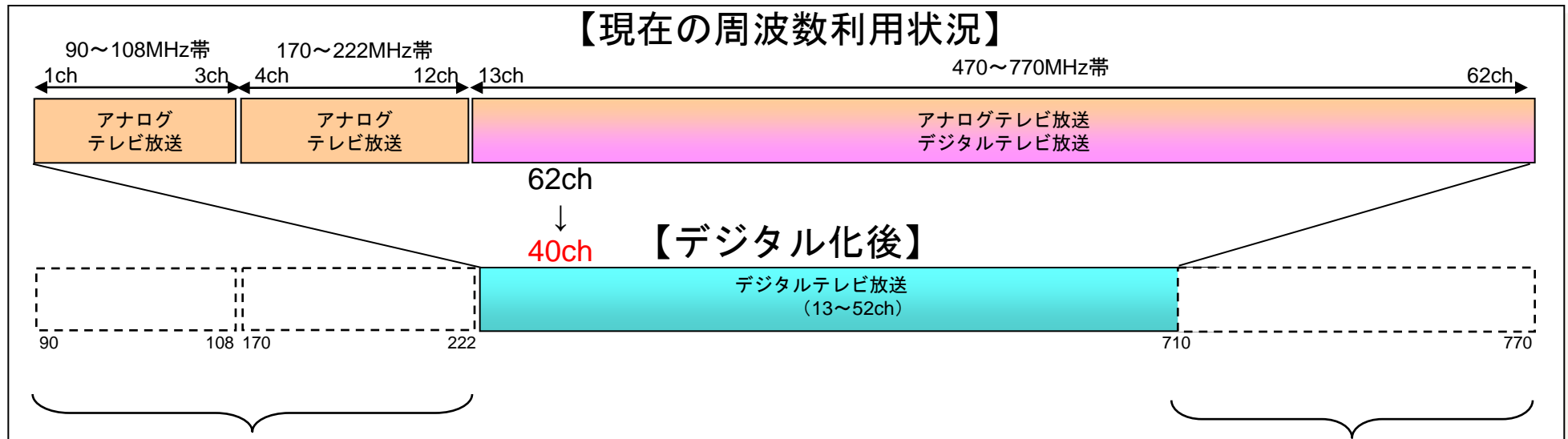
- 2011年7月
地上テレビジョンアナログ放送終了、デジタル化へ移行
- 2012年7月 チャンネルリパック



○ 地上テレビジョン放送のデジタル化による空き周波数を利用した新サービスの登場

○ ホワイトスペースの活用可能性への期待

地上テレビジョン放送のデジタル化による空き周波数を利用した新サービスの登場

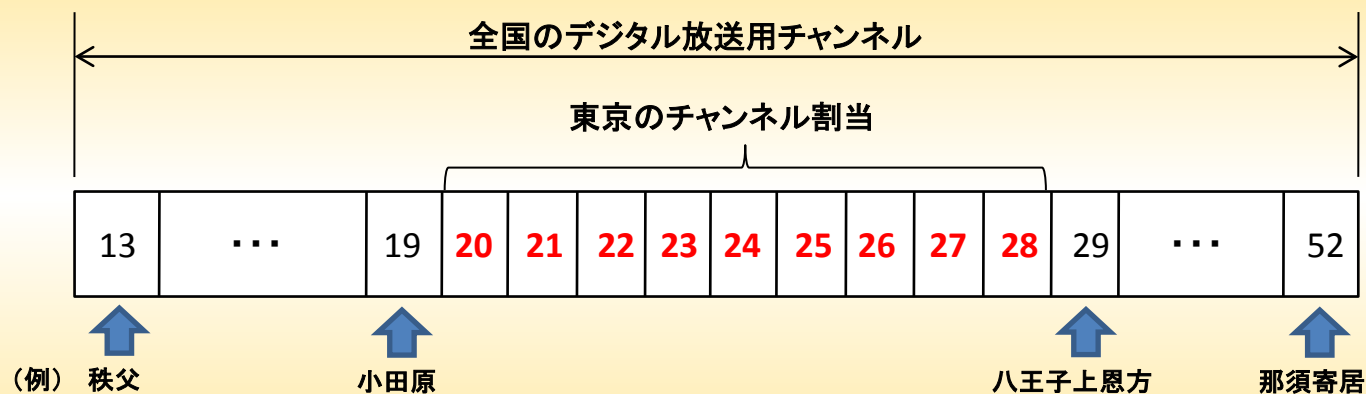


ホワイトスペース活用可能性への期待

いわゆる「ホワイトスペース」とは

放送用などある目的のために割り当てられているが、地理的条件や技術的条件によって他の目的にも利用可能な周波数。

(例)



➡ 現在、ホワイトスペースの利用可能性を把握するため、国内のいくつかの都市・地域における電波の利用実態について実地調査を実施中。

新たな電波の活用ビジョンに関する検討チームの目的

ホワイトスペースの活用など新たな電波の有効利用の促進

1. ホワイトスペースの活用など新たに利用可能な電波の創出

(背景) 新たな電波利用システムやサービスが進展していく中、周波数ニーズが増大。
→ 新たに利用可能な電波を創出するホワイトスペースの早期実現の必要性。

2. 地域社会の活性化などに資するような新たな電波の活用の実現

(背景) 電波は有限希少な資源であり、国民の利便性向上につなげる活用が期待。
→ 現代の社会的諸問題の解決に寄与する新たな電波の活用を実現する必要性。

新たな電波の有効利用の方向性を検討し、その実現に向けた具体的な提言を策定

○ ホワイトスペースはどのような活用が期待されているのか？

◆ 総務省では、平成21年12月11日から平成22年1月12日にかけて、ホワイトスペースの活用方策等について広く提案募集を実施。

◆ この結果、54者から103件の提案。

➡ エリアワンセグやデジタルサイネージを活用した提案が多数。
魅力あるまちづくりや地域雇用の創出などの社会的効果、経済的効果が期待されている。

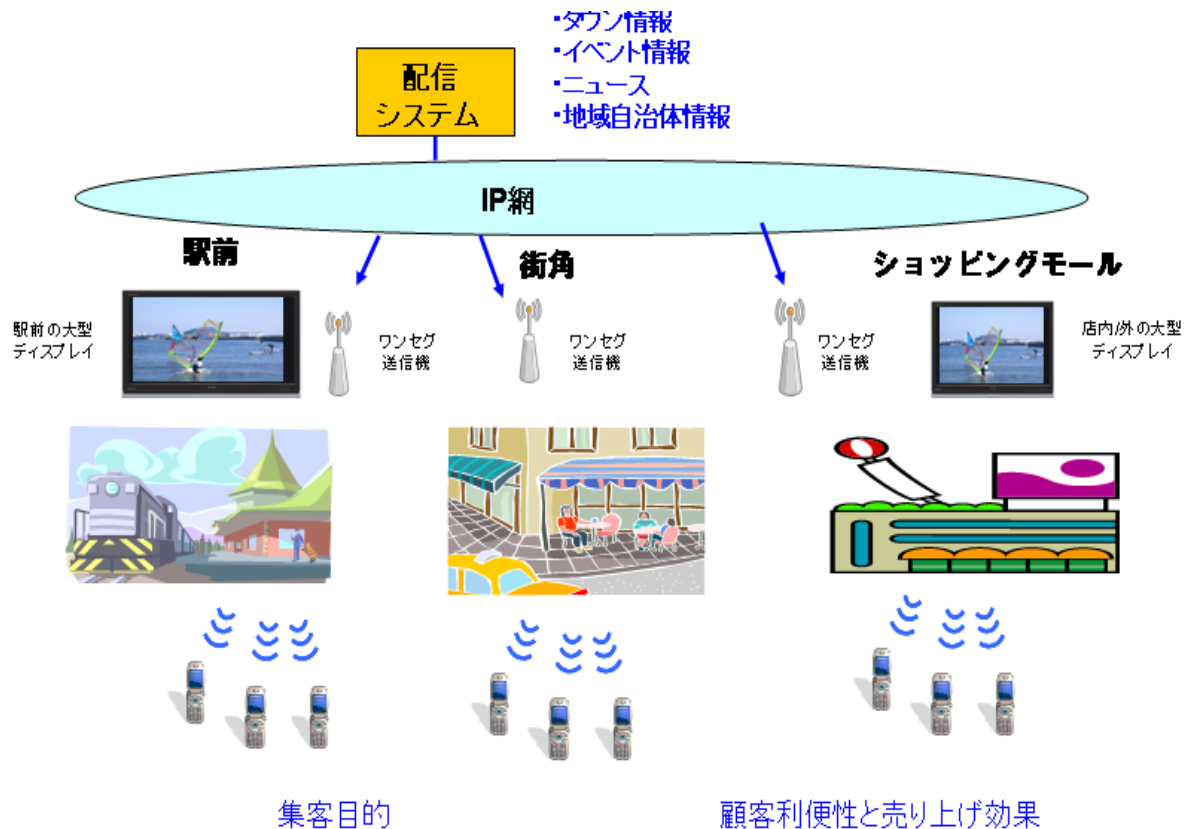
提案例1 地域コミュニティ向け情報提供サービス

【概要】

- ・ 地域のタウン情報やイベント情報などコミュニティ向けの情報を地域の拠点を活用して提供。
- ・ ショッピングモールや商店街のイベントや地域の店舗情報を提供。

【効果】

- ・ 街への帰属意識の高まりなど地域のつながりが再生。
- ・ 防災情報提供や地域間コミュニケーションの増加による安心・安全が向上。
- ・ 情報提供による地域内での流動化や新たな消費行動を喚起。
- ・ 地域イベントの参加者が増加。



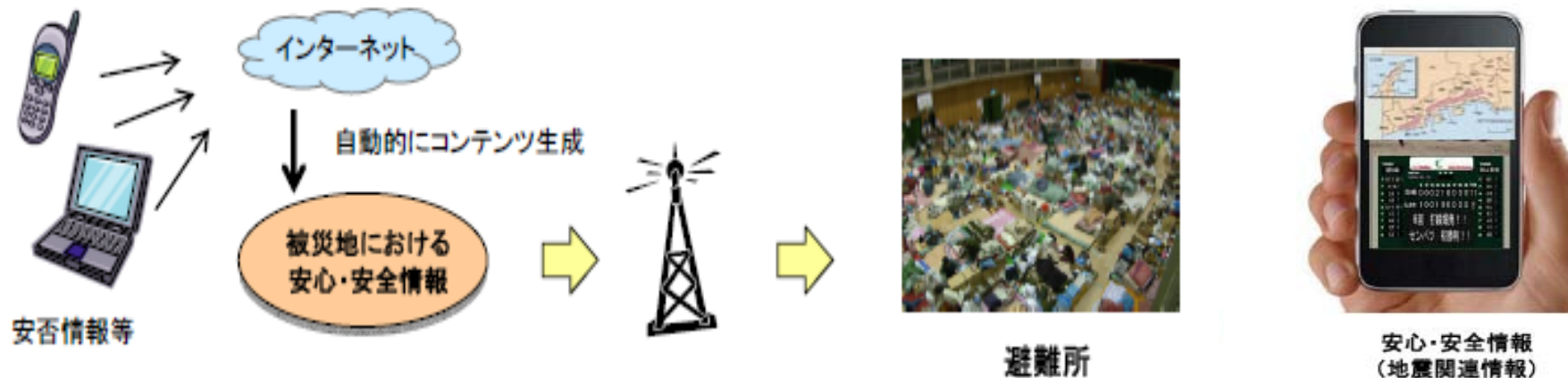
提案例2 災害・防災・被災地情報

【概要】

- ・ 災害、事故及び事件などの発生時に、被災状況や救急医療情報など関連情報を緊急放送。
- ・ 安否情報などを収集して、コンテンツを自動的に生成し、被災者へ提供するサービスの提供。

【効果】

- ・ 音声以外の映像やテキストデータを送信することにより、災害時の情報を正確に伝達可能。
- ・ 災害対策本部から直接市民にメッセージを伝え、心理的にサポート可能。



提案例3 観光

【概要】

- 駅前、自家用車、観光バス車内の旅行者に対し、観光スポットやイベント情報を配信。

【効果】

- 観光地での集客が見込まれ、経済的な効果が期待。
- 地域コミュニティでの経済活動や情報交流が活発化。
- エコツーリズムなどの観点からも地域間交流を活性化。
- 農村部での経済的な効果も期待。

史跡回遊型の観光ガイド
全長7kmの史跡めぐりイベント(今回は本部, 資料館の3箇所でワンセグ送信)

大会本部	伽羅御所跡	柳之御所遺跡資料館	高館義経堂	弁慶の墓	月見坂	中尊寺金色堂	平泉郷土資料館	毛越寺
------	-------	-----------	-------	------	-----	--------	---------	-----

ワンセグ・コンテンツ
史跡紹介, 歴史クイズ
世界遺産登録活動の紹介

ウォーク経路 (全長7km)
ワンセグ送信局

中尊寺
弁慶の墓
高館義経堂
郷土資料館
毛越寺
柳之御所資料館
平泉駅
大会本部

■大泉が池 (おおいずみがいけ)
毛越寺大泉が池は、平安時代に書かれた日本最古の連環書『作庭記』に基づいて造られた庭園です。出雲・立石・華山・砂洲・洲浜が現され、かつて橋が架けられていた対岸には、後醍醐天皇が加賀を遊覧された。曲水の宴が行われていました。

BCエリアワンセグ実験放送

世界遺産登録へ向けて
見どころ
中尊寺
平泉町(あらつらじ)

BCエリアワンセグ実験放送

All rights reserved. Copyright ©2009-2010 Hitachi, Ltd.

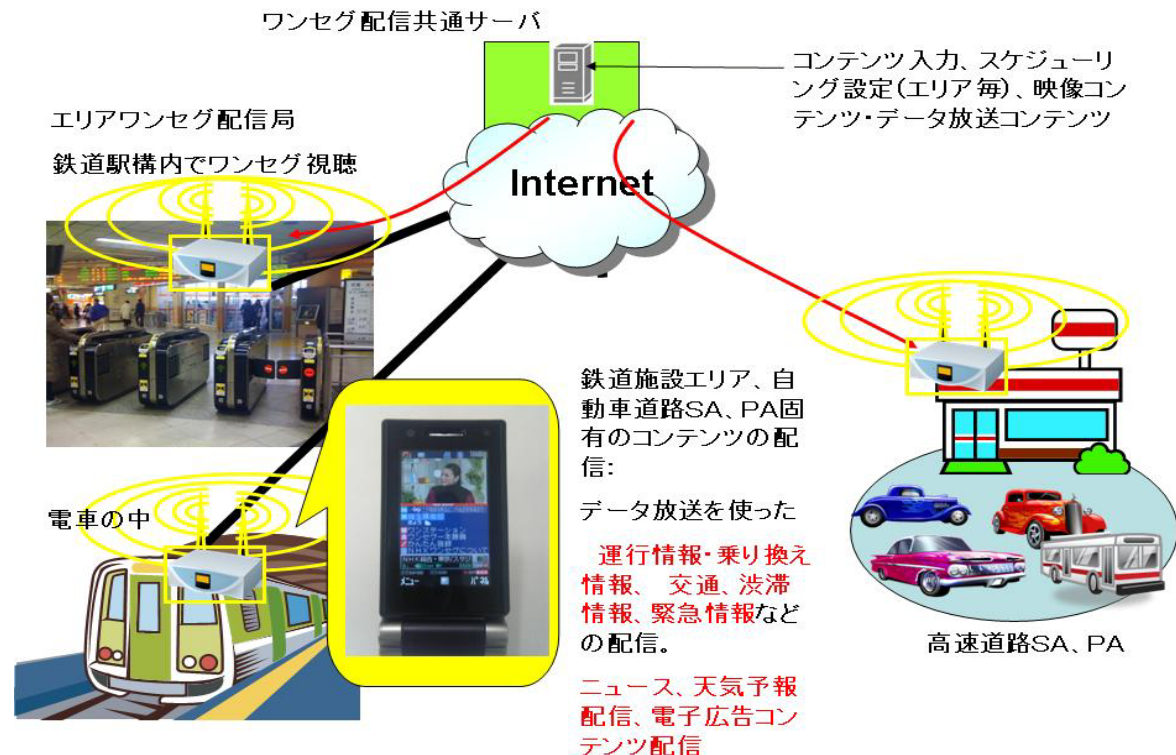
提案例4 交通機関

【概要】

- ・ 駅、バス停、空港、地下鉄など交通機関において、そのエリアに適した各種情報や広告を配信。

【効果】

- ・ 電車の遅延情報、事故情報などをリアルタイムで配信し、交通機関の利便性が向上。
- ・ 空港及び周辺エリアを対象とした新しいメディア事業モデルが構築。
- ・ 空港周辺エリアとの連携により交流人口の拡大を加速させ、それぞれの地域の収益事業化へ貢献。



提案例5 商店街(広告サービス)

【概要】

- ・ 商店街やショッピングモールなどで、リアルタイムセールや価格の比較情報、限定広告・クーポンを提供。

【効果】

- ・ 商店街の活性化。
- ・ 店舗の広告／販売促進効果の上昇。
- ・ 近隣他地域においても同様のシステムを使うことにより、地域間連携による地域機能の補完・シナジー効果が創出され、地産地消や雇用情報の流通促進などに貢献。



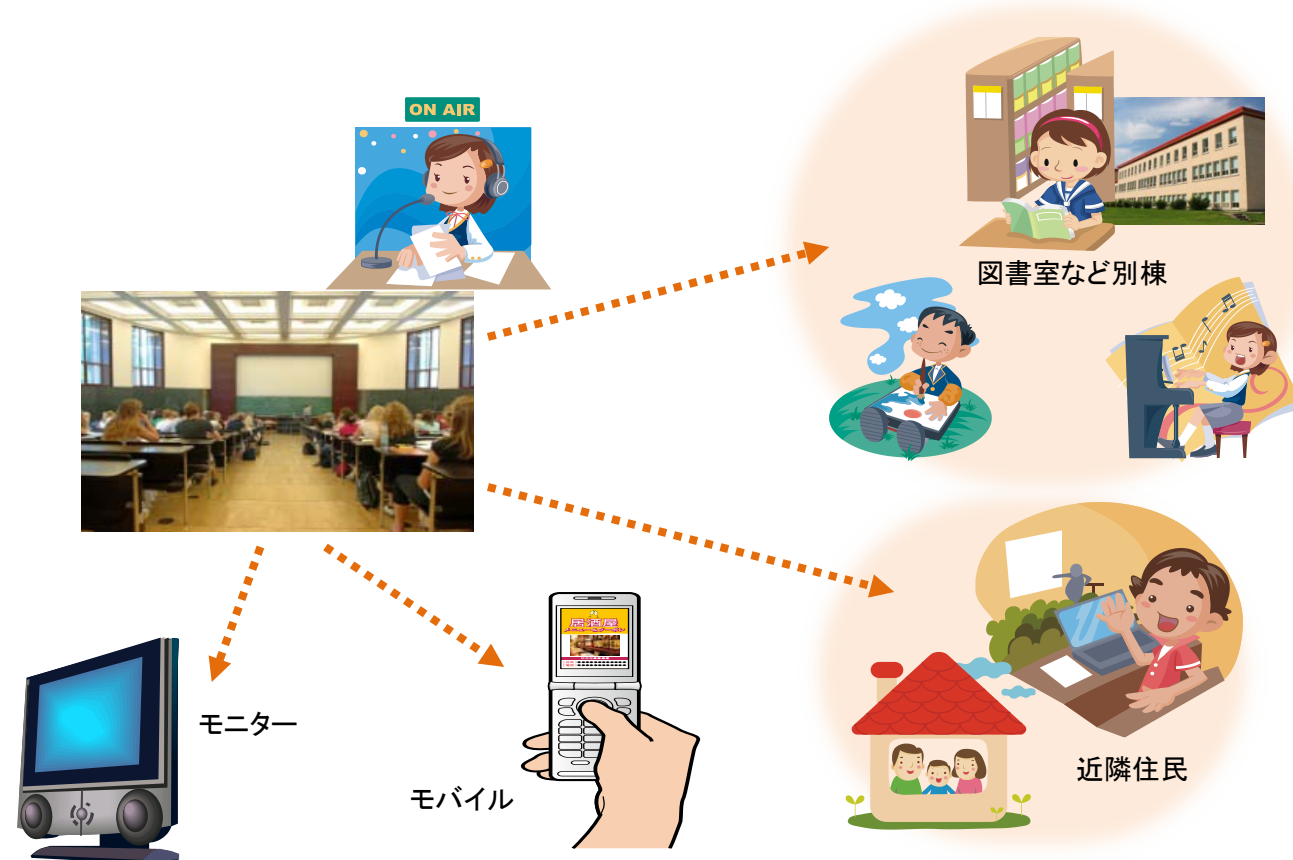
提案例6 大学

【概要】

- 大学を拠点とし、近隣の地域住人に、対象エリアの活発な情報ネットワークを構築。（「カレッジ・ワンセグ放送局」）

【効果】

- 大学を拠点としたネットワークを形成することで、地域コミュニティにおけるクリエイティビシティの取組が促進。
- 大学が有する研究、教育分野などの魅力的なコンテンツを活用することで、地域社会と大学との結びつきを強化。



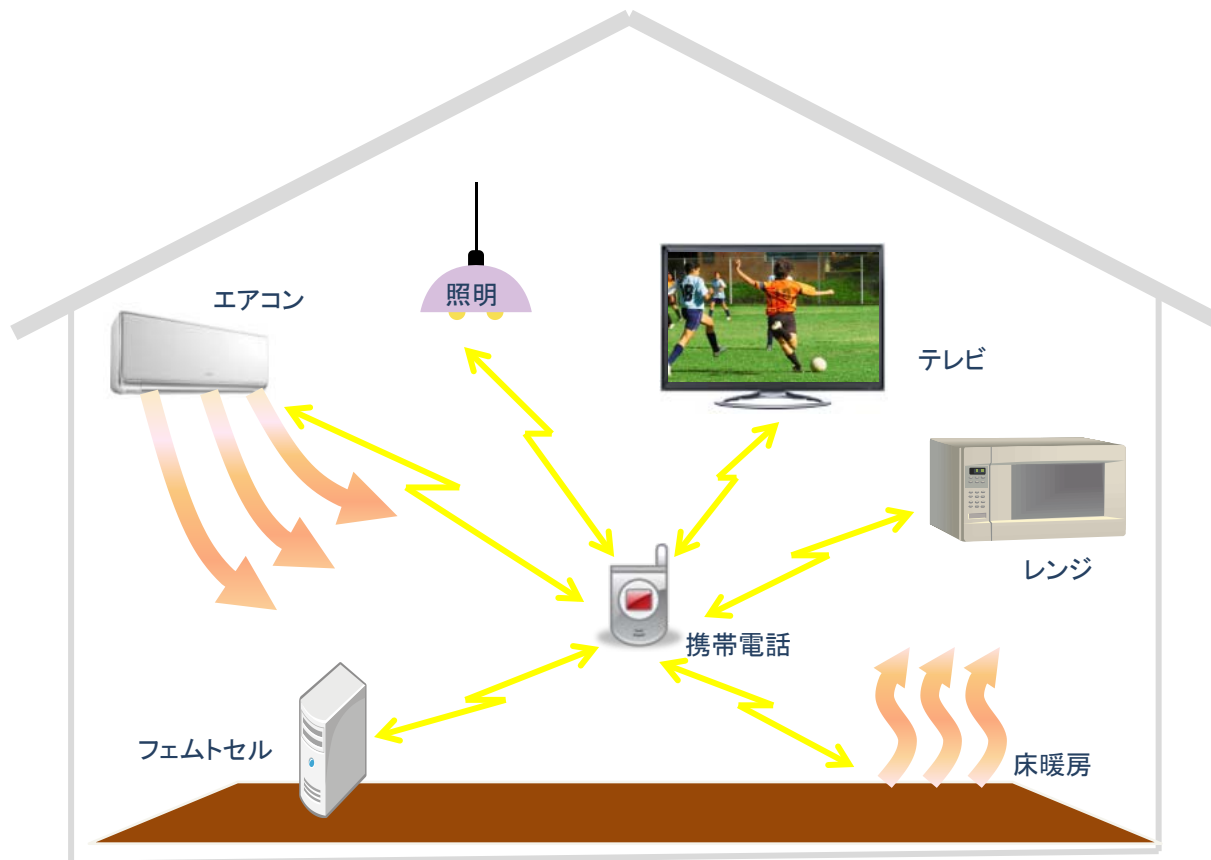
提案例7 家庭内・オフィス内(家庭内ブロードバンド)

【概要】

- ・ 携帯電話を用いた家庭内の情報伝送や家庭内機器間のデータ伝送により部屋やフロアを超えた家庭内ネットワークの構築。

【効果】

- ・ 家庭内ブロードバンドの実現。
- ・ コードのいらぬワイヤレスブロードバンド家電の普及を促進。
- ・ コンテンツ関連の新たなビジネス・雇用の創出が期待。



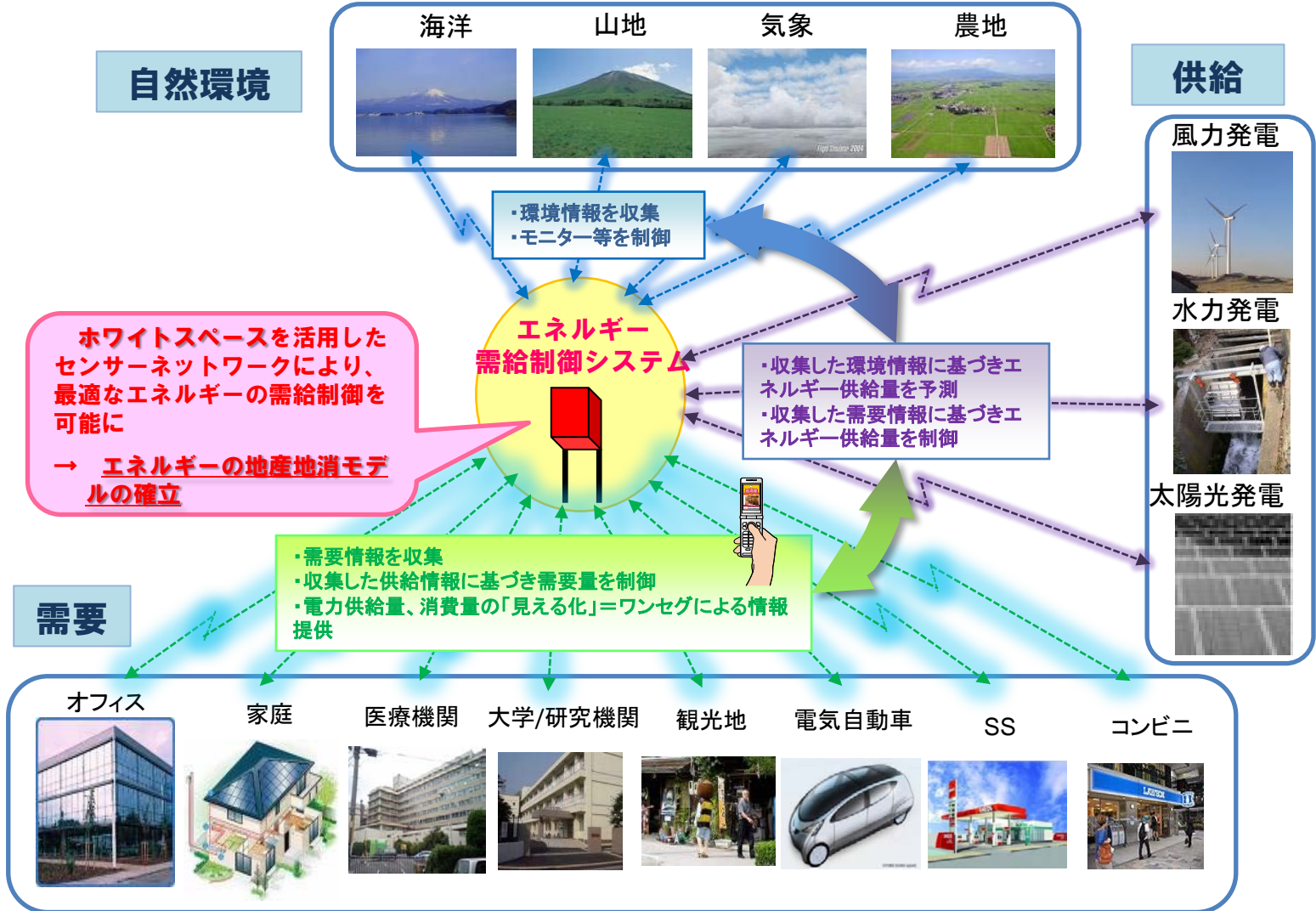
提案例8 環境サービス

【概要】

- ホワйтスペースを活用したエネルギーグリッドと情報グリッドを統合し、エネルギーの適切な需給制御を行うエネルギー地産地消モデルを確立。

【効果】

- エネルギー使用量の「見える化」によりエネルギー利用の減少が期待。
- 地域エネルギー発生／消費情報網を構築し、エネルギーの適切な需給制御が可能。
- 地球温暖化問題やエネルギー問題の解決に寄与。



提案例9 紙メディアのデジタル配信

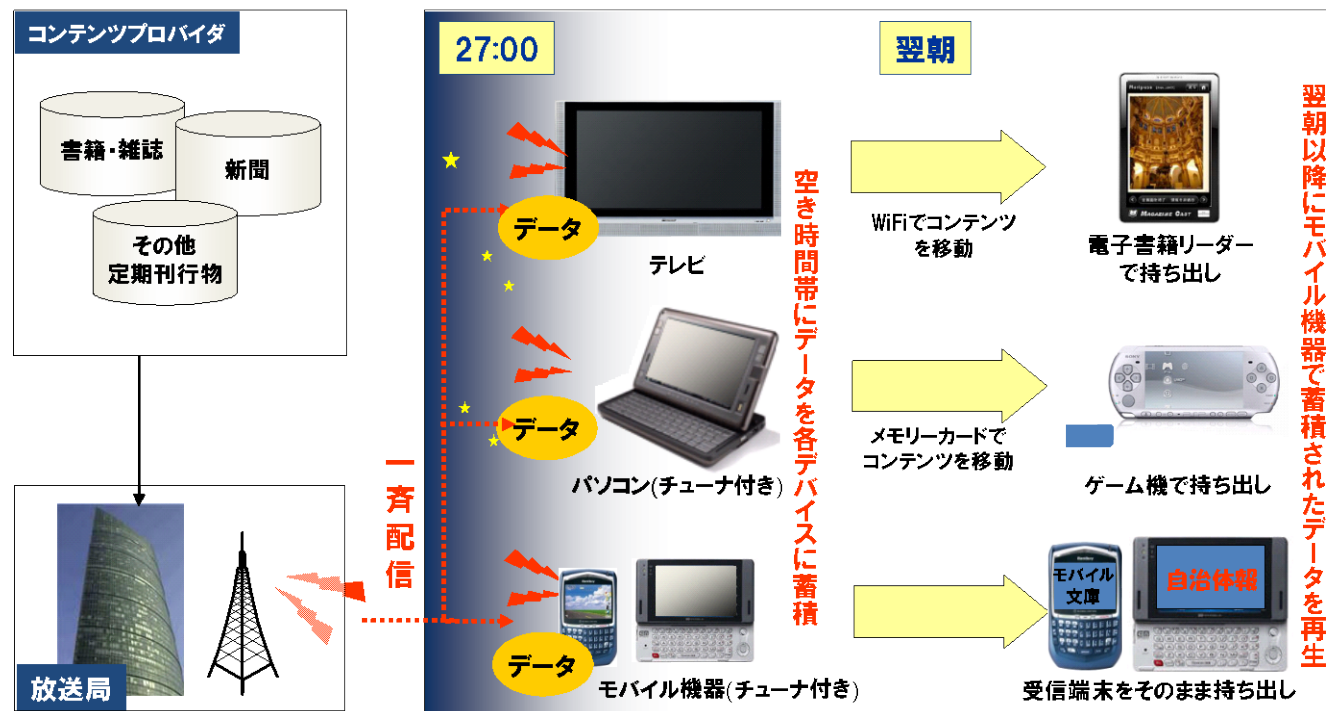
【概要】

- 電子チラシ情報や新聞誌面データ等の紙メディアをIPベースの通信と放送の配信システムにより、あらゆるデバイスに向けて伝送することを可能とする統合配信サービスの提供。

【効果】

- 多様なメディアについて、多様なデバイス、大人数に一齐に同報配信するサービスの実現。
- 地域の放送事業者の新たなビジネス拡大が期待。
- コンテンツの地域利用の促進。
- コンテンツ流通の変化が期待。

- 限られた時間内に特定多数に対して新聞・雑誌コンテンツなどを一齐配信
- 放送局にとって、広告モデルとは異なった新たなビジネスモデルの創出が可能
- コンテンツプロバイダにとっても新たな配信網が生まれ、コンテンツ市場の拡大にも寄与



新たな電波の有効利用による快適元気な街づくり

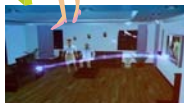
- 地域のタウン情報やイベント情報などコミュニティ向け情報を市役所や郵便局など地域の拠点を活用して提供。
- ショッピングモールや商店街のイベントや地域の店舗情報を提供。
- 災害や事故の発生時に関連情報を緊急放送。
- 大学を拠点として近隣の地域住人対象に対象エリアの活発な情報ネットワークを構築(カレッジ・ワンセグ放送局)。など



地域の絆の再生



観光案内所



暮らしを守る雇用の創出

ホワイトスペースなど新たな電波の有効利用

環境負荷の軽減



新たな電波の有効利用による新産業創出

- 観光情報などナビゲーションサービスをロケーションフリーで提供。
- 地下鉄やバス停などの交通機関などでエリアワンセグやデジタルサイネージなどにより広告やクーポン情報を配信。
- 家庭内の情報伝送や家庭内機器間のデータ伝送を実現。
- 臨場感あふれるスーパーハイビジョンを活用したシアターやパブリックビューの展開。など



新たな電波の有効利用によるグリーンICT

- センサーネットワークによりエネルギーグリッドと情報グリッドを統合し、エネルギー地産地消モデルを確立。
- 河川などの自然環境を把握し、ダムなどの水利施設を制御する遠隔モニタリングシステムを実現。
- 次世代ITSの実現による渋滞緩和、CO2削減への寄与。
- 紙メディアのデジタル配信によるペーパーレス化の実現。など

地域コミュニティの情報発信手段などに電波を活用することにより、魅力あるまちづくりを促進し、地域の活性化を実現。

地域からの情報発信

1. 地域の「ブランド化」 → 魅力あるまちづくり

- 魅力あふれる地域情報や『地域ブランド』の発信
 - どこにでもあるものが『地域ブランド』になる
(例: 上勝町の“葉っぱビジネス”)
 - プロデューサーの存在が鍵

2. 情報発信の多角化 → 地域コミュニティの情報発信力の向上

地域活性化に資するようなホワイトスペースの活用モデルとして、
新たな地域メディアの誕生が期待。

2009年12月 「新たな電波の活用ビジョンに関する検討チーム」発足

- ホワイトスペースの活用など電波利用モデルの策定
 - ・ ホワイトスペースの活用方策等に関する提案募集の実施(12月～1月)
 - ・ 電波の利用状況の現地調査の実施
 - ・ 国際シンポジウムの開催 等
- ホワイトスペース活用などによる社会的・経済的効果の分析
- 実現に向けた制度的・技術的課題の分析 等

2010年7月 ホワイトスペース活用など新たな電波の有効利用の実現方策の策定

- ◆ ホワイトスペース特区(仮称)を創設
 - 研究開発や実証実験などを実施し、制度化に向けて検討

2011年以降 順次、地域などのニーズに合わせた展開を促進